

漫画

大相撲伝



(財) 日本相撲協会

漫画「大相撲伝」発刊について

頭にマゲを結び、廻しを締めた力士たちが、土俵という古式ゆかしい舞台上、品格のある礼法に則り、正々堂々、技と力を競い合う大相撲は、日本の誇る文化である。海外でもその潔さと芸術性、神秘性が早くから受け入れられ、日本を語る上で欠かせぬ様式美と礼法のスポーツとして認められてきた。

本書は、見た目はもちろん、感覚的にもわかりやすい漫画によって、われわれの先祖が大事に育て上げてきた相撲文化の誇りと魅力を、より多くのファンの皆様に理解していただくという主旨でつくられたものである。

そして、ファンばかりでなく、当の力士たちにも、自分たちが懸命に取り組んでいる相撲道についての認識を深め、さらなる精進に役立ててくれるものになることを願っている。相撲の国際化がいわれて久しいが、外国出身力士にも、よい教科書、参考書となるであろう。

国技大相撲のあり方を真に理解し、相撲道を実践していくために、協会、力士、ファンが一体となって、本書を有効に活用していただきたい、とわれわれは考えている。

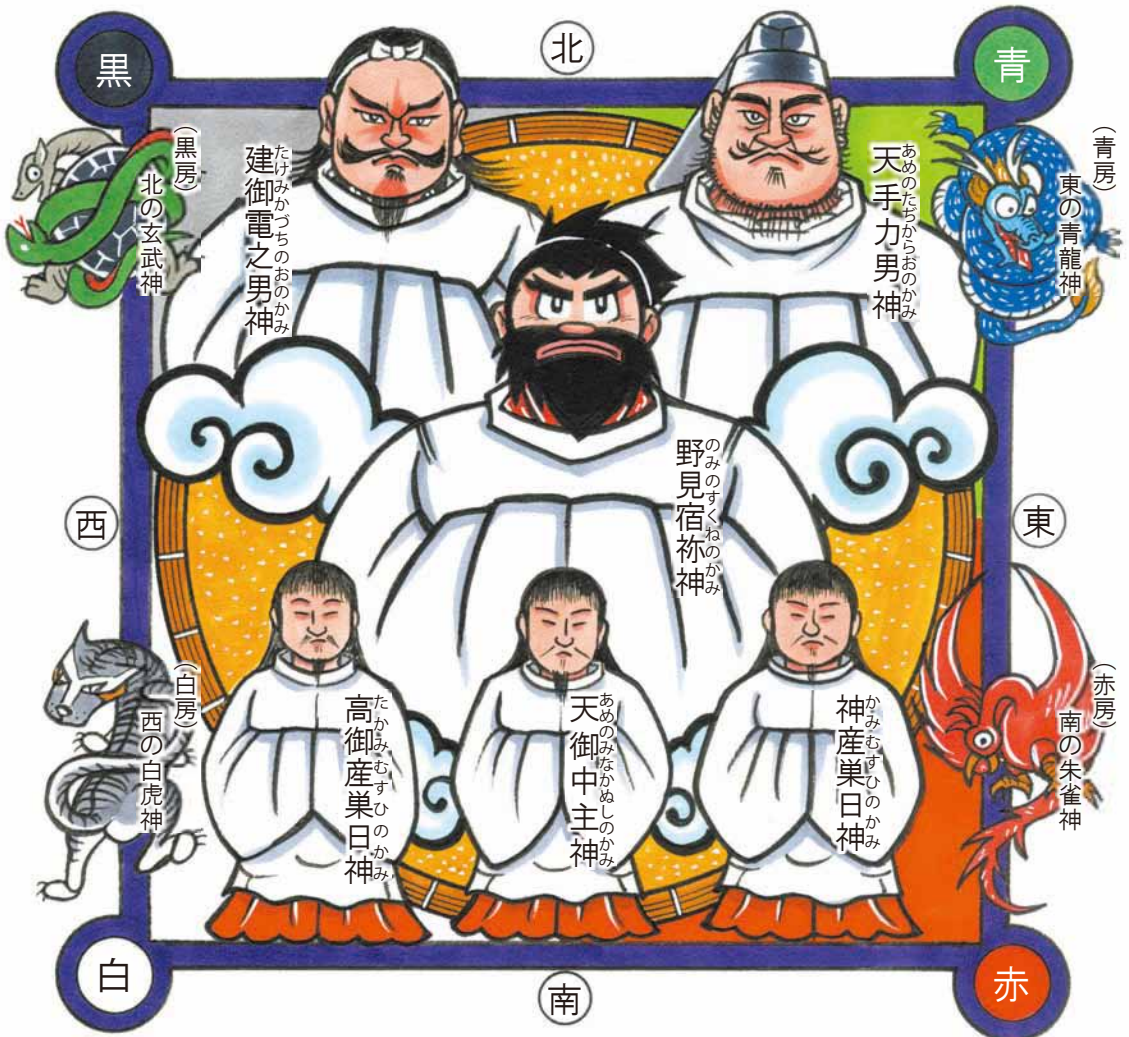
平成22年9月吉日

財団法人 日本相撲協会指導普及部

大相撲を 見守る 神々

(冬)

(春)



黒

北

青

西

東

白

南

赤

(秋)

(夏)

(黒房)

北の玄武神

建御電之男神
たけみかづちのおのかみ

天手力男神
あめのたちからおのかみ

(青房)

東の青龍神

野見宿祢神
のみのすくねのかみ

(白房)

西の白虎神

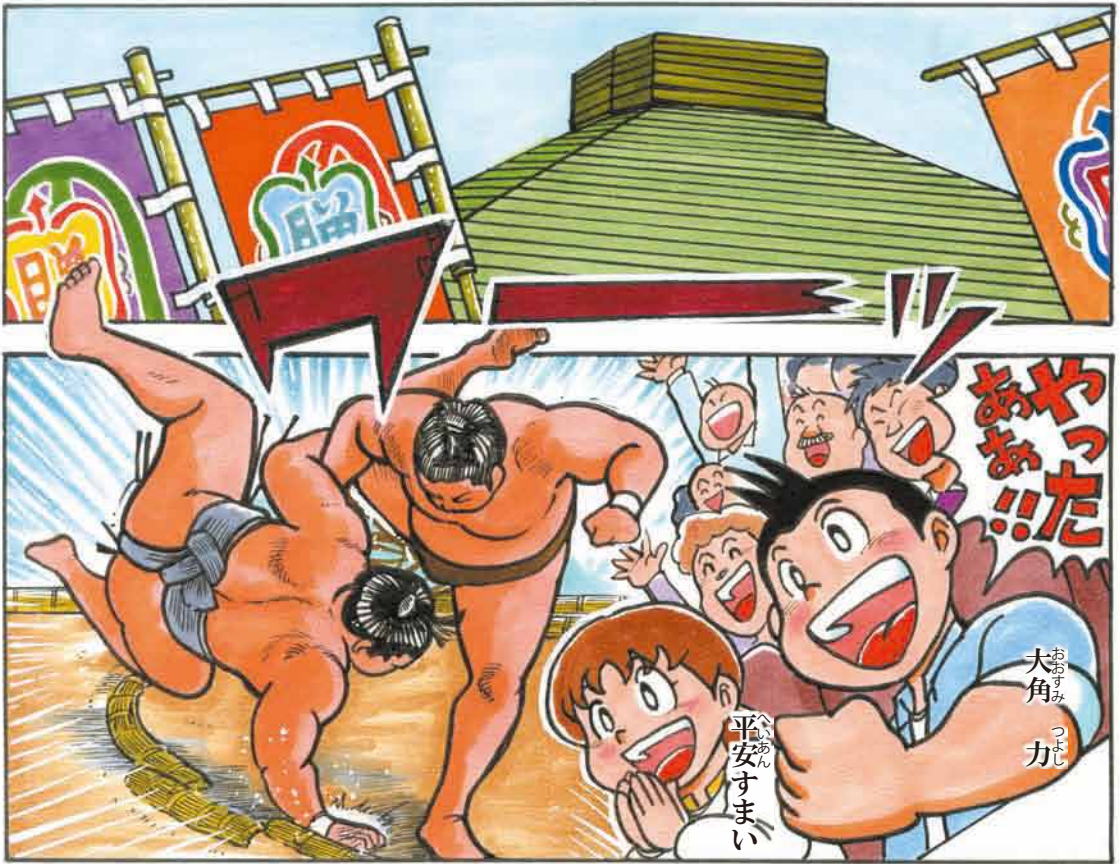
高御産巢日神
たかみむすひのかみ

天御中主神
あめのみなかぬしのかみ

神産巢日神
かみむすひのかみ

(赤房)

南の朱雀神



所作：たちいふるまい。必要な動作





相撲好きなら
大歓迎だ

キミ達
相撲に興味があるのなら喜んで
相撲の歴史や
意味を教えて
あげよう



わあっ
神様ありがとうございます
ございます♡

よろしく
お願いします
します!!



それでは
さっそく
古代の日本へ
タイムスリップだ!!



ここが
古代の
日本だ

この時代の人々は
今年も豊作で
なに事もなく
平和であります
ようにと
村々でお祭りを
開き神々に
お祈りをして
いたんだ



様々な
おんがく
音楽で
喜びを表現し

その年に採れた
作物を神々に
お供えし



相撲を
取ってその年の
豊作を
占ったりも
していたんだ

そして
力自慢の
男達は



踊りを捧げて
神々に感謝
したんだ



さらに
前に進んで
「相撲節会」を
教えよう



さあここは
平安時代だ
「相撲節会」とは
天皇が宮中で
相撲を観覧する
儀式のことで
奈良時代に始まり
平安時代には朝廷の
年中行事として
毎年盛大に行われ
たんだ



この相撲人は
「部領使」というスカウトマンが
各地に出むき全国から
力の強い男達を集めたんだ
そして節会当日は相撲人を
左右に分けて約20番の
取組が行われていたんだ



弓取り式も
この時代に始まり
現在の相撲の基礎は
この平安時代の
「相撲節会」から
始まったんだ

この時代は土俵はまだなく
相手を倒せば勝ちとなったんだ
ただし髪をつかんだり
こぶしで殴る事は禁手だった。
また物言をつげたり
仕切り直しがあつたり
それを見守る
勝負審判も
いたんだ



こうして相撲は
色々な時代を経て
力士達は大変な思いを
して相撲を守って
きたんだ



さあ
平成の
現代だ

さて
五穀豊穣を神に
祈るなごりは
現在も本場所の
初日の前日に
土俵の無事と繁栄を
願う「土俵祭り」として
行われている

相撲協会の理事 長以下
審判員や行司など
土俵にたずさわる
人々が列席して
おごそかに行われて
いるんだ



そして
土俵 中央に開けられた
枱形の穴に「かやの実」
「勝栗」「スルメ」
「昆布」「塩」「洗米」
の縁起物の六品を
おさめて、お神酒を
そそいで、穴を埋め
神へのお供えとし
これを「鎮め物」と
いうんだ



真新しい土俵上に
神官姿の立行司が
祭主を務めて
祝詞を上げるとともに
相撲の始まりから
土俵が出来るまでの
歴史を誇りも高く
方屋開口を読み上げて
式は進むんだ



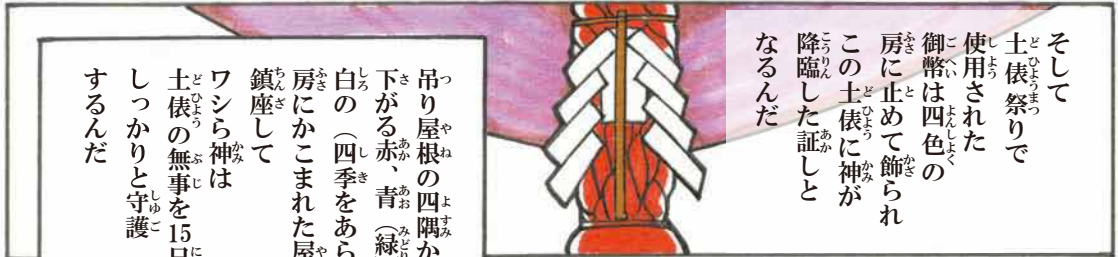
天地開け
はじめてより
陰陽に合ふ



うむ
神聖な場所は
いつもきれいに
しておかないと
ワシらもそこへ
行く気にならない。
キミ達の家も
毎年12月の暮に
大掃除をして
年神様を
お迎えするだろう
それと同じ事なのだ



へエーッ
土俵って
神聖な
場所なんで
すね
神聖な場所
だからこそ
おすもうさんは
入場した時
土俵に一礼する
んですね



そして
土俵祭り
使用された
御幣は四色
の房に止めて飾られ
この土俵に神が
降臨した証と
なるんだ

吊り屋根の四隅から
下がる赤、青(緑)、黒
白の(四季をあらわす)
房にかこまれた屋根に
鎮座して
ワシら神は
土俵の無事を15日間
しっかりと守護
するんだ



(青房)
東の青龍神

(赤房)
南の朱雀神

(白房)
西の白虎神

(黒房)
北の玄武神

たぐさんの
神様達が
おすもうさん達を
見守ってるんだ

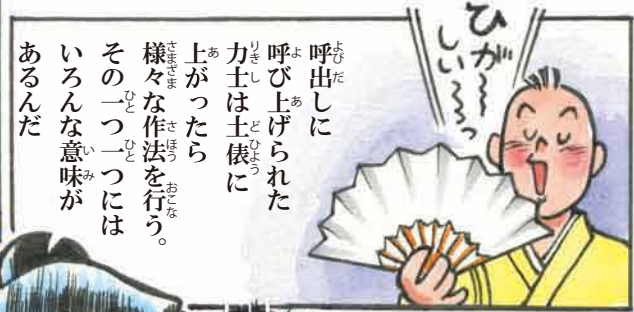


まずは
だれもが知っている
「四股」だ



さあ
お待ちせしたな。
ここからは
すまいちゃん
の知りたい
「なんで？」を
説明しよう

待って
ました♡



呼出しに
呼び上げられた
力士は土俵に
上がったら
様々な作法を行う。
その一つ一つには
いろんな意味が
あるんだ

ひが
しい



力士の足腰を鍛錬する大事な運動だが
足下の地面に潜む邪悪なものを踏みつけて
封じこめる意味があるのだ

四股を踏み終えたら
次は「力水」だ。
勝ち力士もしくは
控え力士が水桶から
ひしゃくで水をすくつて
うがいさせる。
これは水で体を
清める意味がある。
続いてさし出すのが
「力紙」だ。
これもまた口、顔、体を
拭き清める意味が
あるんだ



これらは
キミ達も神社などで
お参りの際
手や口をすすぎ
清める事と
同じなんだぞ



それから、ごぞんじの
塩まきだ
これも土俵の邪気を
払い清め、ケガを
しないように神に祈る
意味があるのだ



塩まきは基本的に
十両以上の力士
だけがゆるされて
おり、一日約40〜50
キロが使用され、
初日から千秋楽の
15日間で600〜700キロ
もの塩が
まかれているのだ。
これだけの塩を
まかれると
邪気もたまった
もんじゃないな
ワハハ……







そして
勝負が終わり
勝つても負けても
相手をややまい、
おたがいに感謝の
礼をする
これは力士の本分だ



キミ達も友達や
回りの人達にも
思いやりや感謝の
気持ちも
忘れては
いかんぞ

これから大人に
なつて一般社会に
出たら人としての
ルールやマナーは
守らなければいけない。
そして両親にもらった
体を大事にしなくちゃ
いかんぞ

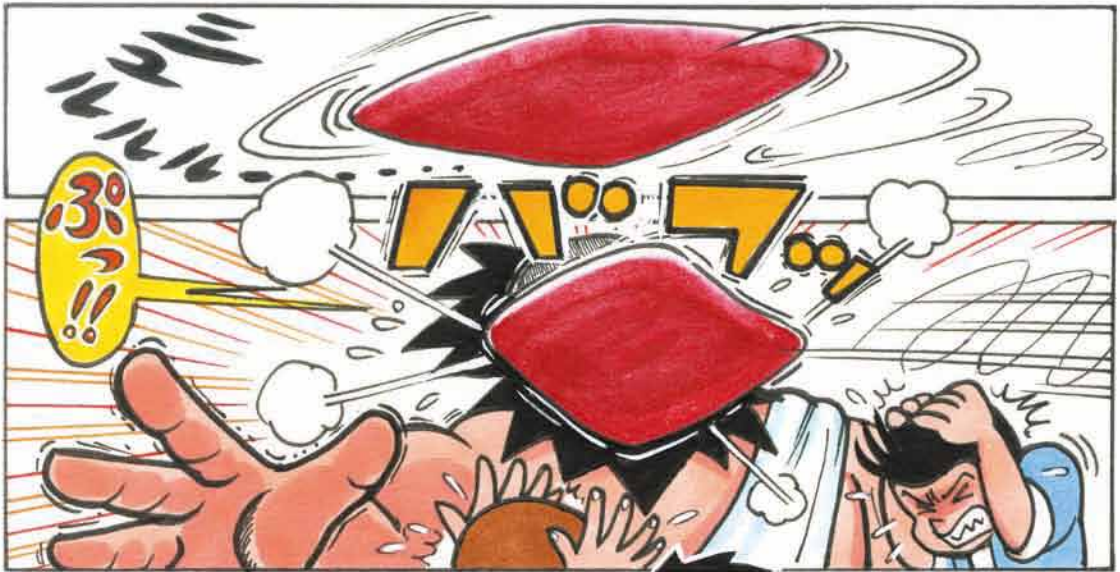


おすもうさんは
「気はやさしくて
力持ち」が
ピッタリね♡

本物の
ヒーローだね!!



キミ達あこがれの
力士達も毎日
激しい稽古をして
心と体をきたえ
みんなの手本となるように
努めている
土俵の上ばかりでなく
礼儀作法や
心の持ち方まで
日本の文化をきちんと
伝えていかなければ
ならない責任が
あるんだ





千秋楽の全取組終了後、我々神は行司がかかえた御幣とともに、この場所の新弟子力士達が胴上げをして天に帰って行くんだ
これを「神送りの儀式」と言って毎場所行われているんだ



そろそろお別れの時が来たみたいだ

エッ?



また相撲の事が知りたかったらいつでも参上するぞ

ありがとうございます

神様 元気でね!!

少しの時間だったがさらばだ!!



相撲は日本のお祭りから生まれたのね

すごく勉強になったわ

うん 相撲って単なるスポーツじゃなくて日本の文化そのものなんだね

今日は国技館に来てよかったね

垂仁天皇七年七月七日に
野見宿祢と当麻蹶速が
天皇の前で相撲を取り
勝者の野見宿祢は
日本相撲の始祖（神）として
ながくまつられるようになった

野見宿祢



当麻蹶速

様式美と正々堂々の所作が つむぎ出す力士の魅力と品格

相撲教習所担当になって以来、私は新弟子たちに力士としての基本を指導しながら、自身も相撲を勉強している。そんななかで、四股、鉄砲、すり足といった昔ながらの鍛錬法のありがたさに改めて気付き、ちりちようずや仕切りといった伝統作法の素晴らしさに想いを致すことが、しばしばある。

古式ゆかしい土俵の上で繰り広げられる大相撲が、なぜに人々に愛され、憧れられる存在になったのだろうか。

それは、大相撲が単なる勝負、格闘術の面白さを超える何かを提供してきたからにはかならない。

相手を土俵の外に出すか、倒せば勝ちというわかりやすいルールのもと、土俵で激しく闘う力士たちは、勝っても負けても相手の心を思いやる心を磨き、それを数々の所作をもって表現してきた。お互いに仕切りを重ねることで集中力を高め、完全に息を合わせきったところで互いが十分で立つ正々堂々の立ち合い……。そんな立派な姿が人々を魅了したに違いない。

つまり、美しい所作、真摯な土俵態度が、土俵上の勝負に数々の光彩を添えてきたのである。これこそがとりもなおさず、大相撲の品位、品格ということになるのではないだろうか。こんな伝統が長く続けられてきたからこそ、大相撲は世界に誇る日本の文化となったのである。

そんな大相撲の奥深さ、面白さを、より多くのファンの皆様にわかっていただくべく動くのは、相撲の指導普及にあたるわれわれの義務である。そして、もうひとつ、若い力士たちにも、日々の稽古ばかりでなく、知識としても、相撲界の伝統の素晴らしさを学び、品格ある本物の力士を目指してもらおうべく、本書は発案、編集された。なお、発案から制作に関しては、私の後輩である元力士で、今、相撲漫画家として活躍する琴剣淳弥氏の力を借りた。

ファンの皆様も、ともに勉強、精進していく力士たちを、優しく、ときに厳しくお見守りくださるようよろしくお願いいたします。

平成22年9月吉日

相撲教習所・大山 進

まんが・琴剣淳弥（ことつるぎ・じゅんや）

1960年、福岡県生まれ。15歳で佐渡ヶ嶽部屋に入門。もともと絵が好きだったことから、現役中より漫画家としても活動。1986年秋場所で引退。相撲漫画家として月刊誌『相撲』、『スポーツ報知』などに連載を持つ。著作には、『相撲おもしろちゃんこ鍋』（博栄出版）、『琴剣のごっつあんです』（NTT出版）、『おすもうさん』（小峰書店）、『マンガ「ちゃんこ」入門』（講談社）がある。

発行日 平成 22 年 10 月 10 日

発 行 財団法人 日本相撲協会

〒130-0015

東京都墨田区横網 1-3-28

編集・制作 財団法人 日本相撲協会指導普及部

印刷・製本 株式会社博美堂

© 財団法人 日本相撲協会 2010

本書の漫画、文章の無断転載を禁じます。

